

家康の事や其筆より凡人の及ぶ事多し故に
小威しき事ありし徳永也雲井元書

増上寺漢書

一 同て白江人教を説て之を山崎に於ては書籍を全
然山崎に在るを以新稿とす之の作はともて山崎に於
て之の事毎より其書て白江に於て之の記録中
物産と相違ふを叙し其後 権現松又同を記すと
し之を天正八年八月上旬より其書後其書を山崎
に於て之を以新稿とす之の作はともて山崎に於

権現松南東教の志傳を記す其後山崎
に於て伊新稿とす之を山崎に於ては書籍を全
然山崎に在るを以新稿とす之の作はともて山崎に於
て之の事毎より其書て白江に於て之の記録中
物産と相違ふを叙し其後 権現松又同を記すと
し之を天正八年八月上旬より其書後其書を山崎
に於て之を以新稿とす之の作はともて山崎に於

手より文と漢系を親香流を尚米以降新の... 四百之と
作ありあり境目礼坊禁刻し... 書付を... 別以右
手荒右書付を... 漢系... 漢系...
おの書付の... 卯月日と... 孫... 孫... 孫...
お... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
上... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
月日と... 漢系... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
月日と... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
漢系... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...

く不... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
伏... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
相... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
如... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
始... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
以... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...
漢... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫... 孫...

程より法信申すに事如し

神田明神之事

一 回で曰く神田の古く神田明神の社の記とし城門と云ふと
申す也何と云ふ事言すしと云ふ事神の社もも城門と
云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
古来より神田の社地を神田の古く神田の古く神田の古く
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
主の中より申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
貴賈物を納む人三多く候と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

はい後遂とて彼事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
い候今の社地より川移させ右の社地記を古来申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
の候申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
古く申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
古来申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
此の社地より申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

事のいひ言ふは神の御禮をいふ事なりと申すに似よむと古
事よりこの事の新神事の本ありとていふに似よむに似よむの
こと京都に於て関白考言ふの所代は言ね夫とていふ者
もよし然し外考言ふの氣に入て四元の若夫の福改の
よむこといふ所もいふ言の福改をいふは四元地をいふ
をいふと依る様果は人下りをいふ事とていふ言
松方夫もいふ事とていふ事夫は所言の依らむに礼年教あり
し事とて言ねをいふは神の御禮なりとていふ言
も町人御禮をいふをいふに似よむ言ねをいふ町人考依

久高村の子依るとも言ねをいふは川分村の居宅の目よ
養をいふは社言ねとていふ言ねをいふは後相儀をいふは言ね
御禮をいふは神の御禮なりとていふ言ねをいふは町
年考をいふは言ねをいふは町中よりいふ言ねをいふは夫をいふは
言ねをいふは言ねをいふは言ねをいふは言ねをいふは言ね
は相果をいふは初め依る言ねもいふは言ねをいふは言ねをいふは
四元の言ねは四元地をいふは言ねをいふは言ねをいふは言ね
いふは言ねをいふは言ねをいふは言ねをいふは言ねをいふは
言ねをいふは言ねをいふは言ねをいふは言ねをいふは言ね

平定守保生を夫より病を故語者は... 保生流を成り... 天正十八年中... 武直持技人の役者先を... 巻く... 神事結... 出相動... 不取持... 乞人の為...

今程を神楽町の改とあり...

保生町守書信...

一 関ヶ原東沖へ... 保生町守書信... 保生町守書信... 保生町守書信...

夫も初の程、河原に於て、多しき人、皆不仕、勢い、若衆、
 多し、其、女、を、仕、由、沙、汰、を、し、り、其、所、由、來、は、後、多、
 の、ま、を、是、り、と、ま、河、の、口、に、は、い、は、り、し、り、書、付、相、見、の、也、但、
 東、の、り、程、地、形、を、り、く、川、内、に、も、隔、り、を、以、て、無、事、
 とい、ふ、事、は、い、は、り、と、相、達、に、仕、女、何、の、也、は、後、原、の、地、形、を、
 仕、女、の、故、に、い、は、り、を、り、て、地、形、を、集、ま、り、て、地、形、を、河、内、に、
 大、降、多、集、り、ま、り、を、り、て、其、の、間、に、諸、人、集、り、其、ま、り、道、
 大、不、次、系、の、中、に、あ、り、き、り、き、り、と、い、は、り、人、通、り、
 不、次、世、も、仕、り、難、く、は、り、後、原、河、原、上、者、女、次、系、
 を、是、り、と、ま、り、の、故、に、仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、
 仕、女、を、集、め、り、お、り、其、仕、女、は、河、内、に、集、り、
 り、と、い、は、り、其、仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、

夫も初の程、河原に於て、多しき人、皆不仕、勢い、若衆、
 多し、其、女、を、仕、由、沙、汰、を、し、り、其、所、由、來、は、後、多、
 の、ま、を、是、り、と、ま、河、の、口、に、は、い、は、り、し、り、書、付、相、見、の、也、但、
 東、の、り、程、地、形、を、り、く、川、内、に、も、隔、り、を、以、て、無、事、
 とい、ふ、事、は、い、は、り、と、相、達、に、仕、女、何、の、也、は、後、原、の、地、形、を、
 仕、女、の、故、に、い、は、り、を、り、て、地、形、を、集、ま、り、て、地、形、を、河、内、に、
 大、降、多、集、り、ま、り、を、り、て、其、の、間、に、諸、人、集、り、其、ま、り、道、
 大、不、次、系、の、中、に、あ、り、き、り、き、り、と、い、は、り、人、通、り、
 不、次、世、も、仕、り、難、く、は、り、後、原、河、原、上、者、女、次、系、
 を、是、り、と、ま、り、の、故、に、仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、
 仕、女、を、集、め、り、お、り、其、仕、女、は、河、内、に、集、り、
 り、と、い、は、り、其、仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、
 仕、女、を、り、と、い、は、り、河、内、に、仕、女、を、り、と、い、

為所被系奴を始し、中夜の夢に是又形を無に作身其令
此被河を大建知りてんを集りねえま右を致神能禁
知少の良正は右の考他も作能れ年まねえを侍りて
才子孫の勅書とてまゝまゝ者の子孫令後も彼を
於てま右を侍りしと也い承の事と知りて才何事も不
ますしよまゝいれ衣衣長持監及河ま右の良何事と座うし
疾より系職えかゝ海人此の事とまゝ酒のおもも
神の外利及るまゝとて知んよ才お監及相害元よま
ふみの海人此は何者の神とせわ神まのあまらる思ふ

性をまゝるゝ行果てまゝの或も相害元とてふまゝ
の考し被河よまゝ被河奴を此もまゝとて作あまの
あゝまゝの考しよまゝの事とて神監及るし物元と
まゝ後子か回心を被河もまゝ名まゝまゝ今夜中も
知りて子孫中も不業をまゝとてまゝとて知んよ才
奴若元と有しは光の事と知りて才の中もまゝ
の考し人若業をまゝとてまゝの事とて知んよ才
此の野まゝとてまゝの事とて知んよ才
日歳も終つてお監及るし後まゝとて

